

しかも経費のかからないBBT計測を応用している者が多い。ことに第2子の場合には非常に多い。

D—12 女子学生の基礎体温に関する研究（第9報）

山形大教育 長岡 佑

1. 前回までは女子学生100名の、松本、大倉氏によるBBT型分類と、飯塚、吉田氏による分類とを比較検討し、前者によるBBT型別、ABO式血液型別にそれぞれ周期日数、回数、持続日数、随伴症状、月経周期日数の変動、BBT型の反復性、無排卵周期、黄体機能不全周期について検討し、100名のうち40名について結婚後の妊孕性および松本氏の基礎体温高温相点数評価法を適用し、妊孕性を比較検討したが、今回は本研究目的(1)のBBT測定後の次回月経予測良否の実態、(2)の卒業後教師としての性生理指導の実態、(3)の家族計画へのBBTの応用の実態を検討した。

2. 第1報、第7報と同様、ほか質問紙法による。

3. (1)次回月経予測良好群と不良群に分け、両群と学年、月経周期日数、月経周期、最頻BBT型、初潮年齢、ABO式血液型、体型などの各条件との関係を検討すると、良好群は月経周期日数平均のちらばりが小さく、頻発、稀発などの異常周期が少なく、最頻BBT型はI～II型がやや多く、初潮年齢は12～13歳代の早いものがやや多い傾向にあるが、不良群はこれらの状態とは全く逆の傾向である。学年、ABO式血液型、体型などには両群の間に差は認められない。(2)卒業後教職に就いたものが98%、全員それぞれ小、中、高校において性生理指導を担当している。(3)結婚後の家族計画には簡易で